

技術のおたずねにこたえて

【おたずね】タモギタケのびん栽培を行っています。毎年冬になると発芽が悪化し、収量も減少します。また換気扇を作動させても生育中のキノコの形が悪くなるので、窓を開け放していますが、燃費がかさむのも困りものです。良い解決法はないでしょうか。（N市，T生）

【おこたえ】送っていただいた菌床と施設の図面を検討しました。

まず冬期の成績不良は、培地水分の不足と培養室に加湿機が無いことから生じる室内の過乾が原因です。送付された菌床は水分が少なく、特にびん口部の水分は55%でした。これでは発芽が悪化するのも無理ありません。北海道は冬期の室内外の温度差が大きいので、どうしても室内が乾くので、培養室への加湿機の設置が不可欠となります。

なお、加湿機を備えたにしろ菌床水分は失われがちですから、春～秋より冬期は培地水分を高目に調整する必要があります。

換気については、図面で見ると、空気の流れが問題です。この施設では生育室の一つの壁面上部に直径35cmの換気扇が3個吸気用として設置され、さらに向かい側の壁面にも同様に3個が排気用として設置されています。そして、それぞれダクトが床近くまで伸びています。このため冷たい外気は吸気ダクトから床面に落ち、そのまま床をはって排気ダクトに到達し、すぐさま室外へ出るため、発生びんが並ぶ棚の空気は入れ換わらずに終わるわけです。吸気ダクトの位置を変え、天井付近に新鮮な空気が吹き出されるようにすれば良いでしょう。なお換気扇が大きいので、換気時間、回数、などの検討も必要です。

（林産試験場 特殊林産科）